

災害時における高速道路の役割について報告しました（2017/11/2）

テーマ：災害の社会的影響，広域避難，高速道路

場所：仙台市中小企業活性化センター多目的ホール（アエル5F）

URL：http://www.e-nexco.co.jp/pressroom/press_release/tohoku/h29/1016b/

NEXCO 東日本仙台工事事務所（宮城県仙台市）は、創立から 50 周年が経過し、これまで宮城県内の高速道路整備を進めてきました。このたび、50 周年の経過を記念し、高速道路整備の歴史を振り返るとともに、これからの震災復興と地域の発展にむけた高速道路の活用を考える特別シンポジウムが、11 月 2 日に開催されました。

このシンポジウムは 2 部構成で行われ、第 1 部では、公益財団法人大阪観光局理事長の溝畑宏氏（元観光庁長官）による基調講演「地方創生と広域連携で東北を元気に！」が行われました。後半の第 2 部としてパネルディスカッションが行われ、溝畑宏氏のほか、一般社団法人みやぎ工業会理事長の竹渕裕樹氏、NEXCO 東日本東北支社建設事業部長の澤田石貞彦氏とともに、当研究所の奥村誠教授（人間・社会対応研究部門）が登壇しました。

その中で、奥村教授は、災害時の迅速な対応と支援における交通・輸送の重要性、東日本大震災後の広域支援者の移動における高速道路利用の状況を報告しました。また、2015 年の国連防災世界会議で採択された仙台防災行動枠組の考え方と、今年から始まる世界防災フォーラムの趣旨についての紹介も行いました。

当日の聴衆は 250 名を超え、議論の概要は 12 月上旬に河北新報の誌面上に掲載される予定です。



文責：奥村 誠（人間・社会対応研究部門）